

文化・芸術

「縄飛びする子供」

1916年5月29日、インク、紙
32・0センチ×20・0センチ

岸田劉生（1891～1929年）

現在、「松本竣介 子どもの時間」を開催中。
この企画展にちなんで、「子どものイメージ」として展示室1～3では、コレクションから子どもを描いた作品を選んで展示しています。

この作品は、その一つです。子供を描いた劉生といえば、まな娘麗子をモデルにした二連の麗子像で広く知られています。

この素描を描いたとき、麗子は2歳でしたから、まだモデルはできなかったでしょう。

劉生は、1914年にセザンヌの水浴図と、ルーベンスなどの古典絵画などに触発されて、「水浴せる三人の子供」という大作を描いています。（45年に焼失）この素描は、この大作からの展開でしょう。

もとよりそれぞれ画家のスタイルは、異なります。しかしながら、子どもを描くとき、いずれもやさしさや温かさが画面から伝わってきます。そうした表現の多様さを、鑑賞していただければとおもいます。（田中）



《名画の扉》

大川美術館企画展から